

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成25年6月
藤枝市（静岡県）

全体総括

○計画期間；平成20年3月～平成25年3月（5年）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

認定された基本計画（第1期計画）においては、『来る人 住む人 充実満足～多機能都心ースポーツ・文化で、ひと・まち元気～』をまちづくりのテーマに掲げ、2つの目標「人々が集い、快適・満足に、はつらつとすごせるまち」「結びつきに支えられ、健やかに暮らせるまち」の達成を目指して、各種事業を実施した。

特に駅南地区において主要事業として取り組んだ「藤枝駅周辺にぎわい再生拠点施設整備事業（BiVi藤枝）」や「新図書館整備事業」、「藤枝駅南口西地区ABC街区開発事業（オーレ藤枝）」等の集客施設の整備が民間企業との適切な連携により全て計画どおり完了し、それぞれ目標を上回る入場者を獲得したことによる効果発現が大きい。また、点としての施設整備に終わらず、各施設同士や（株）まちづくり藤枝等が連携して施設間を結ぶソフト事業を継続的に実施したことにより、回遊性が高まり、周辺の空き店舗等への新規出店も生まれ、恒常的な歩行者の増加に繋がり、大幅な歩行者通行量の増加が実現した。

また、新規に進出し供給されたホテルが順調に稼働し、既存のホテルも価格も含めたサービスの充実により概ね従来の稼働率を確保していることから、積極的に誘致し、年間約 5,000 人の宿泊誘導に成功した全国規模のスポーツ大会開催効果とともに、これまで市外に流出していた潜在需要の掘り起こしができ、基準値の3倍超・目標値の2倍超と大幅な宿泊客数の増加となった。

さらに、土地区画整理事業による公園、上記事業による図書館や映画館等暮らしに付加価値を与える施設の整備により、生活環境向上への期待からマンション等の供給が進み、居住者が計画期間内に約 700 人増加するという成果がみられた。

このように、官民連携した事業や民間活力の積極的な導入など様々な取り組みの効果により、東海ガス（地域の主要エネルギー企業）の本部機能及び危機管理拠点の新設、静岡県看護協会の志太広域支部の事務所や静岡県中部をエリアとする就労支援施設、美容学校の新設など多種多様な機能がさらに集積され、広域拠点性が高まっている。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

総事業72事業のうち、27事業が完了、40事業が実施中、5事業が未着手となっている。未着手事業については、第2期中心市街地活性化基本計画（第2期計画）で実施を図っていく。

3つの目標指標である「歩行者通行量」「宿泊客数」「公共施設の利用者数」の目標値は全て計画期間中にクリアし、その後も順調に推移し、達成することができた。

また、前記「1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）」のとおり、中心市街地内の居住人口は約700人増加するという成果が表れ、さらに民間活力を導入した施設整備、積極的に推進し完了した都市基盤整備により、中心市街地における滞在時間の増加や中心市街地の家屋に係る固定資産税評価額のシェア（12.4%）が、全市に占める人口割合（6.6%）より多くなる等、大きな効果もみられた。計画の認定後、まちづくり機運がさらに醸成され、「藤枝駅前一丁目6街区市街地再開発事業」等新たな民間開発計画が生まれ、計画変更により5つの事業を新規追加できた。

しかし、市民意向調査の結果からにぎわいの実感は薄く、市民の日常的な来街頻度も6.4%低下している。また、各取り組みが区域内で完結し、周辺地域の特色あるまちづくりとの有機的連携が進まなかったことから、当中心市街地が広域における多種多様な活動・交流の拠点、起点となって、周辺地域と繋がり、地域全体の活性化に寄与していくような取り組みが必要である。

3. 活性化が図られた（図られなかった）要因（藤枝市としての見解）

前記「1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）」や「2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）」のとおり、成果や効果がみられた反面、下記のとおり課題等が浮き彫りとなった。

特に、駅北地区においては、大きな集客要因となる市街地再開発事業が権利者の合意形成や事業手続き等に時間を要することから事業化に至っていないことや、中心となる駅前商店街においては、生鮮三品など日常の暮らしを支える店舗が姿を消し、空き店舗が増加するなど空洞化の進行が著しい中、地域コミュニティの拠点という新たな役割を担うなど再生に向けた取り組みが進まなかったことも大きい。こうした状況から、市文化センターを市民の活動・交流拠点として改修し、施設前の歩行者が約1,500人増加するといった効果を発現したものの、駅北地区全体では歩行者通行量の減少が続いている。

また、宿泊者については、大半がビジネス利用ということが判明し、国民年金保養施設「藤枝エミナース」の閉鎖（平成21年3月）後、バンケット・コンベンションと宿泊が一体となった施設が市内になくなったことから、観光やコンベンションによる宿泊需要が市外に流出し、取り零している状況である。なお、宿泊者はホテルが多数立地する駅北地区に多いにもかかわらず、駅北地区の歩行者通行量に結び付いておらず経済効果が限定されているという課題もある。

さらに、映画館・図書館など付加価値を与える施設の整備が進んだ一方で、行政サービスや医療、子育て・高齢者支援、生鮮・日用品販売等の基本的な暮らしを支える施設の整備が進まなかったことから、利便性の高い暮らしの場としての評価が低い状況である。このまま活性化の取り組みを行わない場合、

居住人口が減少に転じることが推計されることから、今後は、継続的かつ幅広い世代の人口誘導を図るため、都市防災、エネルギーの安定確保と低炭素なまちづくりの視点も含め、利便性が高く、安全・安心に暮らせるための生活支援機能の充足が重要である。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて(協議会としての意見)

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

基本計画の目標値を全て達成することができ、行政をはじめとする関係者の尽力に敬意を表する。一方で課題も多く、例えば駅北地区の駅前商店街などにおいては、空き店舗が目立ち、生活者の足元を支援する機能が薄らいでいる。また、活性化の取り組みが周辺商業に結びついていないという意見も多い。第2期計画においては、特に駅北の商店街の関係者等に計画の内容を熟知していただき、商工会議所、行政、まちづくり会社が一体となって、地域全体で推進するという機運や意識を高めていく必要がある。また、地元の人達が、どうしたら地域に人を呼ぶことができるのか真剣に考えていくべきである。今後も行政と共に中心市街地活性化に向けて努力していきたいと考えている。

5. 市民からの評価、市民意識の変化

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

市民意向調査の結果、計画実施前(平成18年度)と比較して中心市街地での滞在時間の増加、来訪目的の多様化、満足度の向上等、成果がみられた。

一方で、中心市街地の来街頻度の低下がみられ、また満足度についても、「満足」「まあ満足」との割合よりも「やや不満」「不満」としている割合の方が依然として高く、中心市街地に期待する役割では、“居住の場”としての評価が低い結果となった。

<実施概要>

実施期間：平成23年12月9日～12月26日

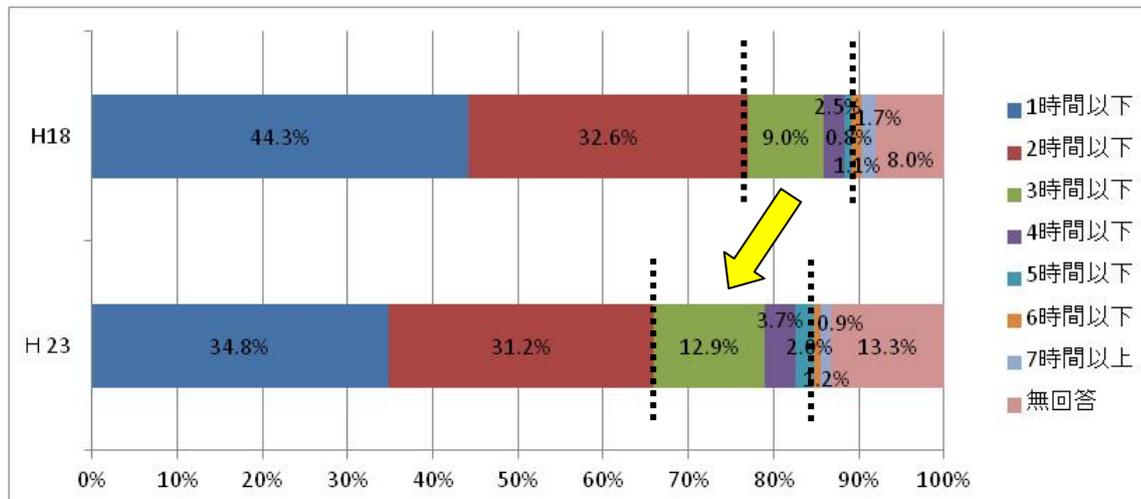
調査対象：藤枝市内に在住する満15歳以上75歳未満の男女、1,200人を無作為抽出

実施方法：郵送による配布及び回収

回収率：約49%(587件)

○中心市街地での滞在時間

長時間滞在する人の割合が多くなっている。

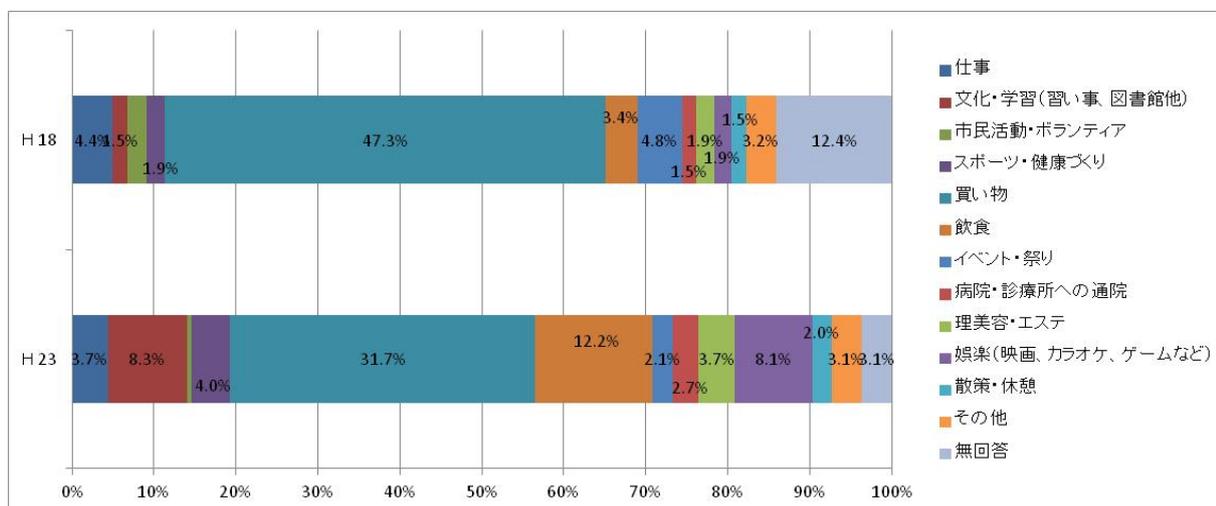


「3時間以下」～「5時間以下」滞在する人の割合の変化

H18	H23
12.3%	18.6%

○中心市街地での主な目的

来訪目的は「買い物」が多いが、平成18年度調査と比較すると大幅に減少し、新たな都市機能の立地推進により、来訪目的が多様化している。

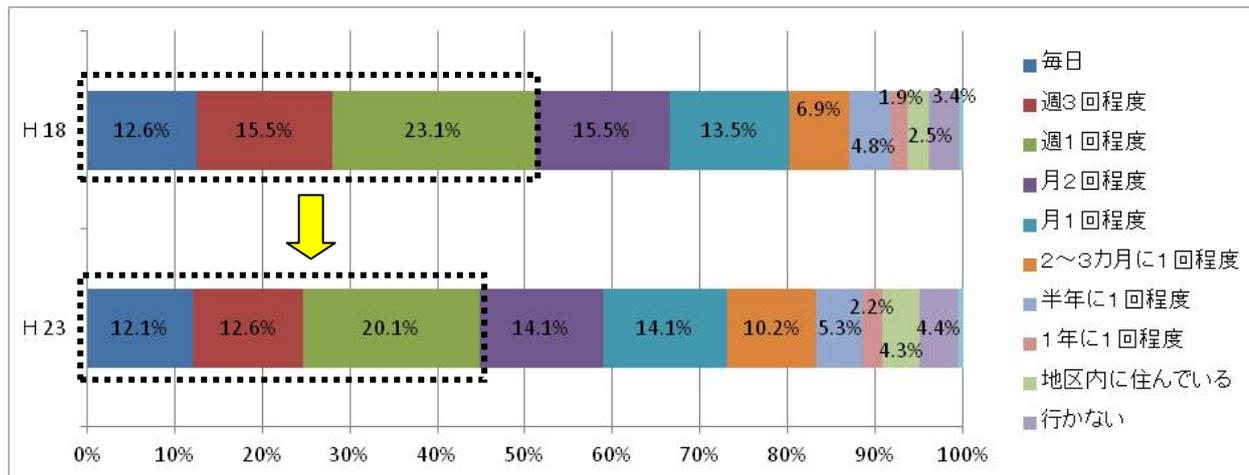


来訪目的の割合の変化

来訪目的	H18 (%)	H23 (%)
買い物	47.3%	31.7%
文化・学習	1.5%	8.3%
娯楽(映画、カラオケ、ゲームセンター)	1.9%	8.1%
スポーツ、健康づくり	1.9%	4.0%

○中心市街地の来街頻度

「毎日」～「週1回程度」の日常的に来街している人の割合は、減少している。

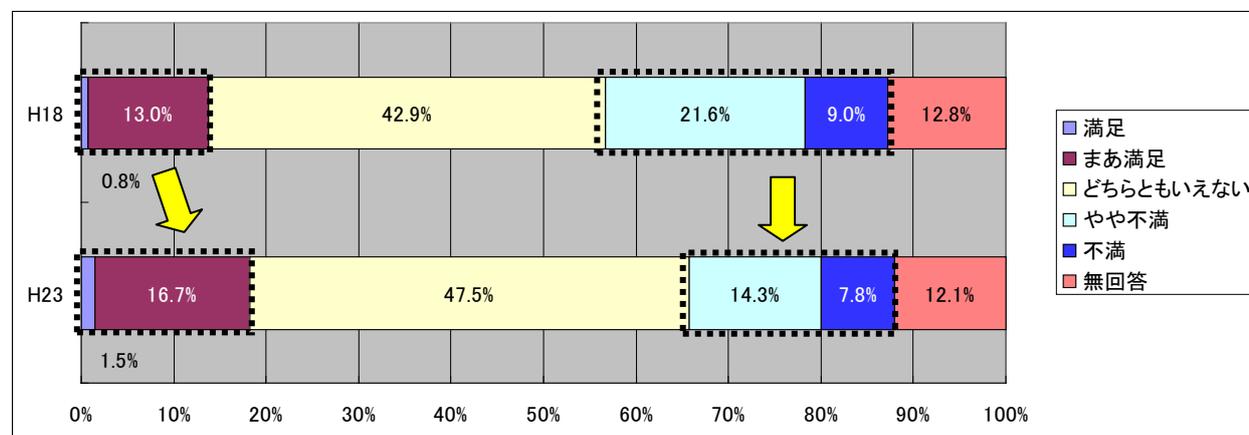


日常的に来街している（週1回以上来街している）人の割合

	H18	H23
割合	51.2%	44.8%

○中心市街地の満足度

「満足」「まあ満足」の割合が増え、「やや不満」「不満」の割合は減少。ただし、いまだ「やや不満」「不満」の割合のほうが高い。

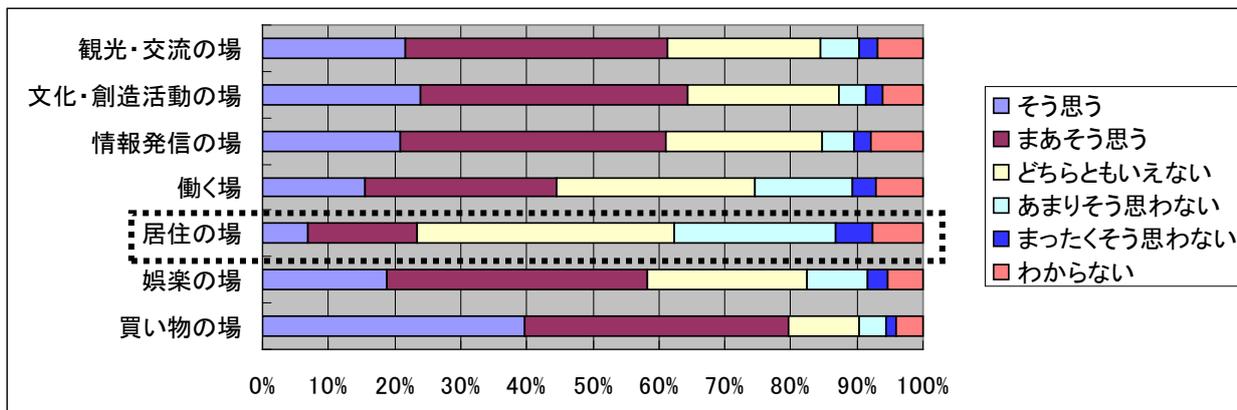


中心市街地の満足度

満足度	H18	H23
満足・まあ満足	13.8%	18.2%
やや不満・不満	30.6%	22.1%

○中心市街地に期待する役割

“居住の場”としての評価が低い。



6. 今後の取組

第1期計画の総括から、「駅北地区における歩行者通行量の減少」「観光・交流需要の取り零し」「居住の場としての生活利便性の低さ」などの課題が明らかになった。それらの課題と、少子高齢・人口減少、環境負荷低減、自然災害等への対応などの社会潮流や選ばれるまちづくり、定住・来訪人口の増加、広域連携の推進などの市政方針を踏まえた上で第2期計画を策定し、平成25年3月29日付けで認定を受けた。

第2期計画では、隣接する認定市である静岡市とは差別化した志太榛原広域エリア（人口約50万圏域）をターゲットに、『来る人、住む人、充実満足 営み溢れ 持続可能な“生活交流都心”』をまちづくりのテーマに掲げ、第1期計画同様、民間活力を積極的に導入し、官民連携した60のハード・ソフト事業を展開していく。また、中心市街地活性化区域を3つのエリア（「訪れたいまち駅南エリア」「住みたいまち駅前エリア」「巡りたいまち青木エリア」）に分け、5ヶ年かけて特色と個性あるまちづくりを進める。特に「駅北の再生」を大きな課題として掲げ、主要事業である市街地再開発事業による良好な居住環境整備や商店街振興、広域拠点機能の集積などを図っていく。

（参考）

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
人々が集い、快適・満足に、はつらつとすごせるまち	歩行者通行量(人/12h)	6,755	8,400	8,544	H25.2	a
	宿泊客数(人/年)	41,488	61,500	127,252	H25.4	a
結びつきに支えられ、健やかに暮らせるまち	公共施設の利用者数(人/年)	661,955	947,000	952,149	H25.4	A

注) 達成状況欄 (注：小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

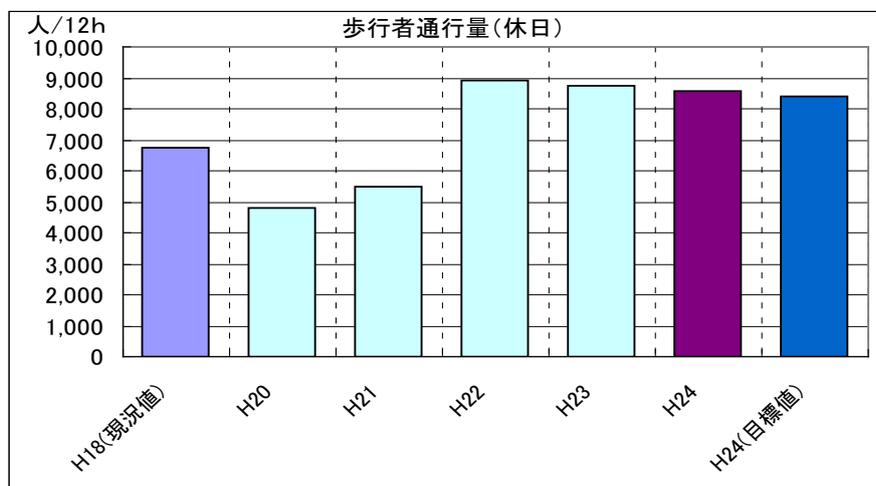
- A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)
- a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)
- B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)
- C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)
- c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「人々が集い、快適・満足に、はつらつとすごせるまち」

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P38～P53 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(単位：人)
H18	6,755 (基準年値)
H20	4,811
H21	5,509
H22	8,898
H23	8,738
H24	8,544
	8,400 (目標)

※調査方法；歩行者通行量調査（毎年度2月の休日12時間〔8：00～20：00〕実施）

※調査月；平成25年2月実施

※調査主体；藤枝市

※調査対象；歩行者（駅南北主要4地点）

【総括】

「歩行者通行量」は、平成24年度（目標年度）で8,544人となり、目標の8,400人を上回ることができた。これは、特に駅南地区において主要事業として取り組んだ「藤枝駅周辺にぎわい再生拠点施設整備事業（BiVi藤枝）」や「新図書館整備事業」、「藤枝駅南口西地区ABC街区開発事業（オーレ藤枝）」等の集客施設の整備が民間企業との適切な連携により、全て計画どおり完了でき、予想を上回る入場者数を獲得したことによる発現効果が大きく影響しているものと考えられる。また、点としての施設整備に終わらず、各施設同士や㈱まちづくり藤枝等が連携して施設間を結ぶソフト事業を継続的に実施したことにより、回遊性が高まり、周辺の空き店舗等への新規出店も生まれ、恒常的な歩行者の増加に繋がったと考えられる。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①藤枝駅周辺にぎわい再生拠点施設整備事業 [BiVi藤枝計画]（大和リース㈱）

（BiVi藤枝施設整備事業）

支援措置名及び支援期間	・暮らし・にぎわい再生事業 H18～H19 ・戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助金 H19～H21
事業開始・完了時期	H18～H20
事業概要	JR藤枝駅南側に位置する市立病院跡地に、民間活力導入により図書館を含む官民複合施設「BiVi藤枝」を整備。集客力のある民間施設（シネコン・商業店舗・子育て支援施設）と公益施設（図書館）の相乗効果で賑わいを創出

目標値・最新値	目標値 1,315 人・最新値 2,882 人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	周辺地域に立地していない広域集客力のある民間施設と集客性の高い公共施設との相乗効果により、継続利用者やリピーターも多く初年度から施設の目標来館者数を大きく上回る数字を記録し、中心市街地における時間消費の向上、歩行者通行量の増加に大きく寄与している
計画終了後の状況（事業効果）	リニューアルにより、新たに美容学校が開校するなど、多種多様な機能が集積し広域からの賑わい拠点施設として機能しているが、施設全体の魅力低下による集客力の維持が課題である。新たな魅力づくりが必要
藤枝駅周辺にぎわい再生拠点施設整備事業の今後について	実施済み

②藤枝駅周辺にぎわい再生拠点施設整備事業 [BiVi 藤枝計画] (大和リース株)

(BiVi 藤枝周辺地区活性化事業)

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	H20～H22
事業概要	市民参加型イベントや周辺商店街連携・公共交通連携スタンプラリーイベント・ツアーイベントを実施し、地域全体での集客力向上、賑わい・交流創出、公共交通の利用促進を図る
目標値・最新値	目標値 1,315 人・最新値 2,882 人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	各施設同士や株まちづくり藤枝等が連携して施設間を結ぶソフト事業を継続的に実施したことにより、回遊性が高まり、恒常的な歩行者の増加がみられる
計画終了後の状況（事業効果）	周辺施設と連携したスタンプラリーなどのイベントが定着し、賑わい創出に貢献している
藤枝駅周辺にぎわい再生拠点施設整備事業の今後について	実施済み

③新図書館整備事業（藤枝市）

支援措置名及び 支援期間	・暮らし・にぎわい再生事業 H18～H19 ・まちづくり交付金 H19
事業開始・完了 時期	H18～H20
事業概要	J R 藤枝駅南側に位置する市立病院跡地に、民間活力導入により整備する官民複合施設「BiVi 藤枝」の一部（約 3,300 m ² ）を藤枝市が賃借し、収蔵能力 30 万冊の「藤枝市立駅南図書館」を整備
目標値・最新値	目標値 720 人・最新値 2,882 人
達成状況	達成
達成した（出来 なかった）理由	市民の文化・学習ニーズが高く、民間施設との相乗効果を図り、また、利用者の増加を図るため、通勤・通学者が利用しやすいよう、午後 8 時まで開館。また、図書館ボランティアによる「幼児お話し会」や「親子手遊び読み聞かせ教室」、「古本販売」なども実施
計画終了後の状 況（事業効果）	更なる利用者の拡大を図るため、特色ある図書館を目指し、ビジネス支援事業等と連携し、ビジネス向けの本の陳列やビジネス支援員を配置しており、ビジネス利用者が増加している。
新図書館整備事 業の今後につい て	実施済み

④藤枝駅南口西地区 A B C 街区開発事業 [新日邦藤枝駅南口開発プロジェクト] ((有)新日邦)
(A B C 街区複合施設整備事業)

支援措置名及び 支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助金 H20～H22
事業開始・完了 時期	H19～
事業概要	J R 藤枝駅南口に隣接する市有地を民間活力導入により有効活用し、市の顔にふさわしい都市機能（CATV 放送センター、ホテル、温浴施設、フィットネスクラブ、商業店舗等）が集積する拠点施設を整備する
目標値・最新値	最新値 2,882 人
達成状況	—
達成した（出来 なかった）理由	周辺に同様類似施設が無く、CATV 放送センターと連携した情報発信事業や「スポーツ」「健康」をコンセプトにしたフィットネスや温浴施設は、多様化するライフスタイルや高齢化により意識が高まる生涯スポーツ、健康づくりに寄与し、継続的な集客となっており、歩行者通行量に大きく貢献している
計画終了後の状 況	・第 I 期事業である A 街区複合施設の CATV 放送センターでは、独自

況（事業効果）	<p>に中心市街地の情報発信番組などを制作・放送し、フィットネスクラブでは、随時集客イベントや(株)まちづくり藤枝などと連携した事業展開を実施しており、賑わいが創出され、本市の玄関口のランドマーク・情報発信拠点として定着しつつある。</p> <p>・当事業のため掘り出した天然温泉を活用した「足湯温泉」は、平成22年11月のオープン以来、多くの利用者があり賑わいづくりに貢献している</p>
藤枝駅南口西地区ABC街区開発事業の今後について	<p>第Ⅱ期事業であるBC街区複合施設（ホテル、バンケット、チャペル、温浴施設、商業店舗等が入居）について、昨今の経済情勢や収益性確保、都市計画手続の必要性から着工が遅れていた。B街区複合施設については、平成26年2月の着工、平成27年秋頃オープンを予定</p>

⑤藤枝駅南口西地区ABC街区開発事業〔新日邦藤枝駅南口開発プロジェクト〕((有)新日邦)
 (ABC街区周辺地区活性化事業)

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	H21～H22
事業概要	<p>「QRコード」を活用し、藤枝駅周辺の100店舗が参加したグルメラリーイベントなど、周辺店舗・商店街連携した市民参加型イベントを実施し、地域全体での集客力向上、賑わい・交流創出を図る</p>
目標値・最新値	最新値 2,882人
達成状況	—
達成した（出来なかった）理由	<p>当施設が起点となり回遊性を創出するイベント等を周辺施設、商業者と連携して実施することにより、街なかの集客力・回遊性の向上に寄与している</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>計画期間中に実施した市民参加型イベントや「駅周辺イルミネーション事業」「て～しゃばストリート開催事業」などとの連携から、周辺施設等との連携が深まりイベント等が定着し、賑わい創出に大きく貢献している</p>
藤枝駅南口西地区ABC街区開発事業の今後について	実施済み

⑥藤枝駅前一丁目6街区市街地再開発事業（再開発組合）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）H22～H26
事業開始・完了 時期	H21～H26
事業概要	合理的かつ高度な土地利用により細分化された敷地を統合し、藤枝駅前商店街の中心的な立地に相応しい拠点施設を整備し、賑わいと回遊性のある商業空間の形成、街なか居住の促進、居住環境の向上を図る
目標値・最新値	目標値 50 人・最新値一人
達成状況	未達成
達成した（出来 なかった）理由	権利者の合意形成や事業手続き等に時間を要し事業化に至っていない状況である
計画終了後の状 況（事業効果）	継続して権利者の合意形成など事業推進を図っている
藤枝駅前一丁目 6街区市街地再 開発事業の今後 について	第2期計画期間内の平成28年度完成を目指し、事業推進を図っていく

⑦藤枝駅前一丁目8街区市街地再開発事業（再開発組合）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）H22～H26
事業開始・完了 時期	H22～H26
事業概要	合理的かつ高度な土地利用により細分化された敷地を統合し、藤枝駅北口広場に面する立地に相応しい拠点施設を整備し、賑わいと回遊性のある商業空間の形成、街なか居住の促進、居住環境の向上を図る
目標値・最新値	目標値 50 人・最新値一人
達成状況	未達成
達成した（出来 なかった）理由	権利者の合意形成や事業手続き等に時間を要し事業化に至っていない状況である
計画終了後の状 況（事業効果）	継続して権利者の合意形成など事業推進を図っている
藤枝駅前一丁目 8街区市街地再 開発事業の今後 について	第2期計画期間内の平成28年度完成を目指し、事業推進を図っていく

⑧文化センター地区暮らし・にぎわい再生事業（藤枝市）

支援措置名及び 支援期間	暮らし・にぎわい再生事業 H21
事業開始・完了 時期	H21
事業概要	施設の老朽化により利用度が低下した「藤枝市文化センター」の耐震・改修を行い、市民交流センターや展示場、ホール等を整備し、市民の活動・交流拠点として再生させる
目標値・最新値	目標値 102 人・最新値 3,636 人
達成状況	達成
達成した（出来 なかった）理由	この改修事業により各種市民団体の活動交流拠点として再生させ 30,000 人を超える利用者増による効果と考える
計画終了後の状 況（事業効果）	計画終了後も自由な社会貢献活動を行う活動・交流スペースや市民ロビー、多目的ホール、展示場等が有効に活用されており、市民の活動交流拠点となっている。特に、高齢者の生活を支援するコミュニティサロン「お日まち処」が毎月市民ロビーで開催され、賑わいの創出と街なか居住環境の向上に寄与している
文化センター地 区暮らし・にぎ わい再生事業の 今後について	実施済み

3. 今後について

・特に課題となっている駅北地区については、2 地区で進行する市街地再開発事業を柱に、医療福祉施設、子育て・高齢者支援施設等生活を支援する機能の集積と、活動やコミュニティの拠点づくりを進めるため、第 2 期計画における積極的な取り組みによる居住人口の誘導を行い、着実に増やすことにより、狭商圈の新たな商業需要を生み、駅前商店街のにぎわいを創出するとともに、歩行者通行量の増加を図る。

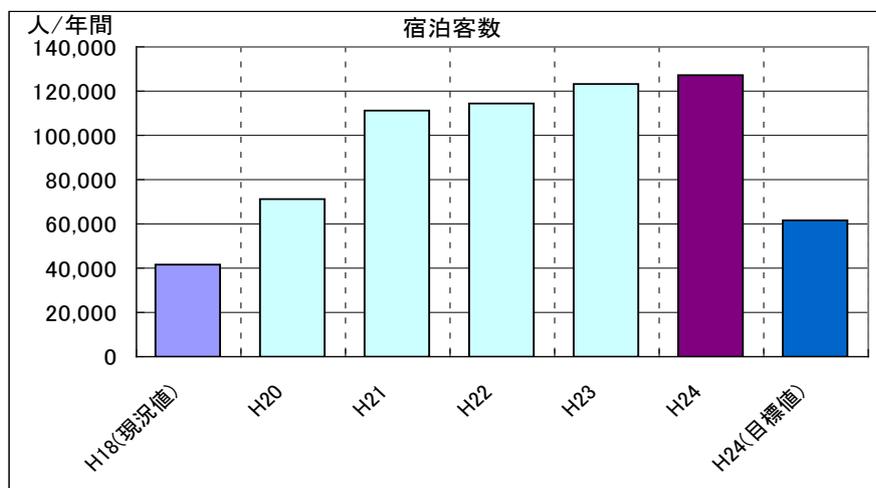
・観光・交流需要の取り込みについては、富士山静岡空港や新東名高速道路等交通インフラ充足の機会と当中心市街地の立地メリットを最大限活用し、周辺地域と連携を図りながら、中心市街地に欠落する宿泊と一体となった観光やコンベンション等を誘導する。このため、第 2 期計画において、藤枝駅南口西地区ABC街区開発事業の第Ⅱ期事業(国際観光ホテルを中心とした複合施設整備事業)を推進し、当施設を起点とした新たな活動や交流、周辺商店街等への経済波及を図る必要がある。これらの取り組みにより、居住者や宿泊者を街なかに誘導し、回遊させ、歩行者通行量の増加を図る。

個別目標

目標「人々が集い、快適・満足に、はつらつとすごせるまち」

「宿泊客数」※目標設定の考え方基本計画 P38～P53 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(単位：人)
H18	41,488 (基準年値)
H20	71,038
H21	111,555
H22	114,341
H23	122,983
H24	127,252
	61,500 (目標)

※調査方法；宿泊客数調査

※調査月；平成 25 年 4 月調査・取りまとめ（数値：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月の宿泊客数の合計）

※調査主体；藤枝市

※調査対象；中心市街地内の 7 ホテル ①藤枝パークインホテル ②ビジネスホテルイレブン

③フジエダオガワホテル ④藤枝サザンホテル（H25.1 破産により閉鎖）

⑤ホテルルートイン藤枝駅北

⑥セラム 41 プラザホテル（H20.6 閉館。H20.12 に「ふじえだ泊」としてオープン）

⑦東横イン藤枝駅北口（H20.10 オープン）

【総括】

「宿泊客数」は、平成 24 年度（目標年度）で 127,252 人となり、大半がビジネス利用ではあるものの、目標である 61,500 人の 2 倍以上の宿泊客数を獲得することができた。これは、新規に進出し供給されたホテルが順調に稼働し、既存のホテルも価格を含めたサービスの充実により、概ね従来稼働率で推移するなど、競争力が高まったことが要因としてあげられる。こうしたホテル側の努力とともに、活性化事業として積極的に誘致し、年間約 5,000 人の宿泊誘導に成功した全国規模のスポーツ大会開催の効果もあって、これまで市外に流出していた宿泊の潜在需要の掘り起こしができたことが、目標値を大きく上回る結果に繋がったと考えられる。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①藤枝駅南口西地区 A B C 街区開発事業 [新日邦藤枝駅南口開発プロジェクト] ((有)新日邦)

(A B C 街区複合施設整備事業)

【再掲】 P9 参照

②全日本女子剣道選手権大会開催事業（全日本剣道連盟、静岡県剣道連盟）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	H17～H22
事業概要	女子剣道の全国大会を中心市街地内に立地する静岡県武道館で毎年開催。中心市街地における交流を促進する
目標値・最新値	目標値 354 人・最新値 330 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	選手役員 215 人、来場者数 2,000 人を記録しており、宿泊施設や飲食店のご案内、お土産の斡旋など来街者への利便性向上のための取り組みを行っているが、選手や役員の宿泊が主になっている
計画終了後の状況（事業効果）	全国規模大会の連続開催により、市民意識の定着化・高まりが図られ、競技人口が拡大し、スポーツ交流が促進された
全日本女子剣道選手権大会開催事業の今後について	平成 23 年度より他県開催となったため当面開催されない見通し

③全国シニアサッカー大会誘致・開催事業（藤枝市、日本サッカー協会ほか）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	H20, H22～H26
事業概要	シニアサッカーの全国大会（50 歳～70 歳代）を誘致し、毎年開催 中心市街地における交流を促進する
目標値・最新値	目標値 3,561 人・最新値 1,200 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	宿泊施設や飲食店のご案内、お土産の斡旋など来街者への利便性向上のための取り組みを行っているが、選手やスタッフの宿泊が主になっている
計画終了後の状況（事業効果）	継続して開催されており、市民意識の高まりが図られ、競技人口が拡大し、スポーツ交流が促進されている
全国シニアサッカー大会誘致・開催事業の今後について	今後も継続して開催予定

④日本スポーツマスターズ2009静岡大会開催事業（日本体育協会ほか）

支援措置名及び 支援期間	—
事業開始・完了 時期	H21
事業概要	シニア世代を対象にしたスポーツの祭典。本市ではサッカー大会、空手道大会を開催。中心市街地における交流を促進する
目標値・最新値	目標値 4,857人・最新値 4,600人
達成状況	未達成
達成した（出来 なかった）理由	宿泊施設や飲食店のご案内、お土産の斡旋など来街者への利便性向上のための取り組みを行っているが、選手スタッフの宿泊が主になっている
計画終了後の状 況（事業効果）	本市のスポーツ文化を支えるサッカーや空手道の全国規模大会の開催により、さらに市民意識を高め、競技人口が拡大し、スポーツ交流が促進された
日本スポーツマ スターズ200 9静岡大会開催 事業の今後につ いて	未定

⑤ライフル射撃選手権大会誘致・開催事業（藤枝市、日本ライフル射撃協会ほか）

支援措置名及び 支援期間	—
事業開始・完了 時期	H19～
事業概要	ライフル射撃の全国大会を誘致し、毎年開催。中心市街地における交流を促進する
目標値・最新値	目標値 2,340人・最新値 3,000人
達成状況	達成
達成した（出来 なかった）理由	各種大会の誘致による宿泊者の増加。宿泊施設や飲食店のご案内、お土産の斡旋など来街者への利便性向上のための取り組みの実施
計画終了後の状 況（事業効果）	静岡国体時に建設された日本有数のライフル射撃場へは、立地の優位性もあり、その後も日本のトップレベルの選手が集まり、多くの全国規模大会が開催されている。全国規模大会の連続開催により、市民意識を高め、競技人口が拡大し、スポーツ交流が促進されている
ライフル射撃選手 権大会誘致・開催事 業の今後について	今後も継続して各種大会を開催予定

3. 今後について

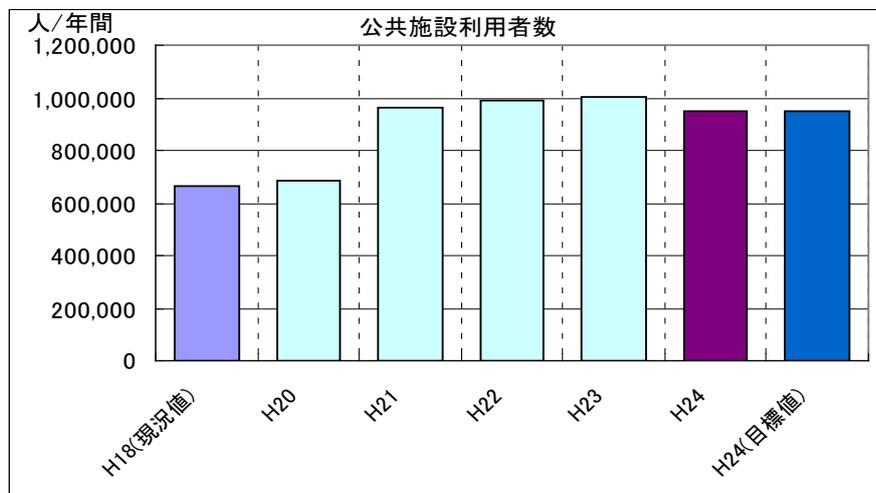
- ・宿泊客数は目標値を大幅に達成したが、大半がビジネス利用ということが判明し、観光やコンベンションによる宿泊需要を取り零している状況である。このため、第2期計画において、宿泊と一体となった観光やコンベンション等を誘導する。その核となる施設として、藤枝駅南口西地区ABC街区開発事業の第Ⅱ期事業(国際観光ホテルを中心とした複合施設整備事業)を同計画に位置づけ、着実に実施されるよう推進を図る。
- ・今後も様々な全国規模の大会を誘致することによって宿泊者増加に向けた取り組みを継続する。
- ・サザンホテルが経営の悪化から破産し閉鎖されたが、その後の競売により市内でホテル経営を行っている事業者が取得。リニューアルしホテルを継続して運営することになった。

個別目標

目標「結びつきに支えられ、健やかに暮らせるまち」

「公共施設の利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P38～P53 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(単位：人)
H18	661,955 (基準年値)
H20	685,666
H21	963,559
H22	991,094
H23	1,004,398
H24	952,149
	947,000 (目標)

※調査方法；公共施設利用者数調査

※調査月；平成 25 年 4 月調査・取りまとめ (数値：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月の公共施設の利用者数の合計)

※調査主体；藤枝市

※調査対象；中心市街地内の 5 公共施設 ①藤枝市民体育館 ②藤枝市武道館 ③静岡県武道館
④藤枝市文化センター ⑤藤枝市立駅南図書館

【総括】

「公共施設利用者数」は、平成 24 年度 (目標年度) で 952,149 人となり、目標の 947,000 人を約 5,000 人上回ることができた。これは、主要事業として整備した新図書館の年間利用者が目標を約 15 万人以上上回り、また、市文化センターを改修により各種市民団体の活動拠点として再生させ 30,000 人を超える利用者増となったことによる効果大きい。また、その他の施設においても管理者による市民教室等積極的なソフト事業の取り組みが功を奏し、目標を達成できたと推察している。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況 (事業効果)

①新図書館整備事業 (藤枝市)

支援措置名及び支援期間	・暮らし・にぎわい再生事業 H18～H19 ・まちづくり交付金 H19
事業開始・完了時期	H18～H20
事業概要	J R 藤枝駅南側に位置する市立病院跡地に、民間活力導入により整備する官民複合施設「BiVi 藤枝」の一部 (約 3,300 m ²) を藤枝市が賃借し、収蔵能力 30 万冊の「藤枝市立駅南図書館」を整備
目標値・最新値	目標値 260,000 人・最新値：417,428 人
達成状況	達成
達成した (出来なかった) 理由	市民の文化・学習ニーズが高く、民間施設との相乗効果を図り、また、利用者の増加を図るため、通勤・通学者が利用しやすいよう、午後 8 時まで開館。また、図書館ボランティアによる「幼児お話し会」や「親子手遊び読み聞かせ教室」、「古本販売」なども実施
計画終了後の状況 (事業効果)	更なる利用者の拡大を図るため、特色ある図書館を目指し、ビジネス支援事業等と連携し、ビジネス向けの本の陳列やビジネス支援員を配置しており、ビジネス利用者が増加している。
新図書館整備事業の今後について	実施済み

②文化センター地区暮らし・にぎわい再生事業（藤枝市）

支援措置名及び支援期間	暮らし・にぎわい再生事業 H21
事業開始・完了時期	H21
事業概要	施設の老朽化により利用度が低下した「藤枝市文化センター」の耐震・改修を行い、市民交流センターや展示場、ホール等を整備し、市民の活動・交流拠点として再生させる
目標値・最新値	目標値 149,000 人・最新値 130,333 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	来館者数は基準年である平成 18 を 3,000 人ほど減少している。リニューアルにより、貸し館部分が減少したことが大きな要因と考えるが、立地特性を活かした最大限の有効利用が図られていない。なお、計画策定時に 27,000 人の増加を見込んでいた子育て支援施設の整備は計画変更により、B i v i 藤枝内に「藤枝おやこ館」として実現。年間 2 万人超の利用実績を上げている
計画終了後の状況（事業効果）	計画終了後も自由な社会貢献活動を行う活動・交流スペースや市民ロビー、多目的ホール、展示場等が有効に活用されており、市民の活動交流拠点となっている。特に、高齢者の生活を支援するコミュニティサロン「お日まち処」が毎月市民ロビーで開催され、賑わいの創出と街なか居住環境の向上に寄与している
文化センター地区暮らし・にぎわい再生事業の今後について	実施済み

③市民体育館耐震化事業（藤枝市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（藤枝中心市街地活性化地区））H22～H24
事業開始・完了時期	H22～H24
事業概要	経年劣化・耐震化が課題となり地域防災拠点としての機能が低下している本施設の耐震補強による再生により、市民の身近なスポーツ・健康づくり、子育て・交流の場の提供、安全安心な住環境の向上に寄与する
目標値・最新値	目標値 98,000 人・最新値 31,451 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	アスベストなど想定していなかったものへの対応に時間を要し、耐震・改修工事の期間が平成 23 年 12 月～平成 24 年 9 月となり、当初から遅れたことにより、平成 24 年の前半が使用できなかったため
計画終了後の状況（事業効果）	より安全安心な施設に生まれ変わり、スポーツ、健康づくり、子育て、交流などの場として幅広く活用されている
市民体育館耐震化事業の今後について	実施済み

④文化センター生涯学習事業（藤枝市）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	H21～
事業概要	社会教育の自主事業を行うことで、市民の交流・コミュニティ形成、生きがいの場づくりを行う。
目標値・最新値	目標値 149,000 人・最新値 130,333 人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	当初の予定より前倒しで文化センターの耐震・改修を実施したことにより、事業期間が短くなったことと、リニューアルにより市民活動交流センターを中心とした施設に転換し、市民活動団体による運営となったため、市直営での生涯学習事業は実施しなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	第2期計画に位置付けた「文化センターコミュニティ拠点化推進事業」により、施設内にある市民交流センターやロビーを積極的に活用し、市民交流・コミュニティの場としての有効活用を図っていく
文化センター生涯学習事業の今後について	上記「計画終了後の状況（事業効果）」のとおり、今後有効活用を図っていく

3. 今後について

- ・市民の活動・交流拠点として改修を行った文化センターを、管理体制も含めさらに市民協働によるコミュニティの拠点として利用促進を図る事業が計画されている。また、藤枝市立駅南図書館では、図書館を活用し市内の中小企業が活躍できる環境を整え、地域経済の担い手として成長させる「エコノミックガーデニング」のビジネス支援拠点として、産業振興を図る事業を計画しており、来館者の増加に寄与すると考えられる。以上の事業は第2期計画に位置付けている。
- ・藤枝市体育館、藤枝市武道館、静岡県武道館についても、今後もイベントの開催を含め来館者数増加に向けた取り組みを継続していく。